

## 7 ウイルス関連血球貧食症候群 (VAHS) を合併した薬剤性胆管消失症候群 (drug-induced VBDS) の 1 例

吉川 成一・有賀 諭生・津端 俊介  
 山川 雅史・平野 正明・桃井 明仁\*  
 永井 孝一\*・青木 信将\*\*  
 石田 和加\*\*\*

県立中央病院消化器内科  
 同 血液内科\*  
 同 呼吸器内科\*\*  
 同 皮膚科\*\*\*

症例は 72 歳, 男性.

【主訴】黄疸.

【現病歴】2006 年皮膚炎, 2009 年 10 月よりカポジ水痘様発疹症, 2010 年 2 月に帯状疱疹を発症, 改善後より少量のステロイド剤と抗アレルギー剤 (Ebastine) を開始. 2010 年 6 月敗血症を発症し抗生剤にて治療. 2010 年 8 月に黄疸を主訴に当科受診.

【入院後経過】入院時の肝生検にて高度の小葉間胆管消失がみられ, drug-induced VBDS と診断. 休業後, 肝機能, 黄疸の改善傾向がみられたが, 10 病日目より CMV による VAHS を発症. ステロイドパルス療法, ガンマグロブリン大量療法, 抗ウイルス剤にて治療を開始. CMV 性腸炎による小腸出血, MSSA による皮下膿瘍も発症し, 重度の免疫不全が原因と考えられた. 定期的なガンマグロブリン投与にて病状改善し, 155 病日目に退院. 発症 18 ヶ月後の肝生検で小葉間胆管の再生が見られた.

【結語】免疫不全による CMV 感染により発症した VAHS を合併した VBDS を経験した. Drug-induced VBDS が最も疑われたが, CMV 感染, VAHS が誘因となった可能性も考えられた (JDDW2011 にて発表).

## 8 塩素化炭化水素 (ジクロロブタジエン) タンク内作業後に急性発症した劇症肝不全の 1 例

吉川 成一・有賀 諭生・津端 俊介  
 山川 雅史・平野 正明・笹川 泰司\*  
 津畑 豊\*・安城 淳哉\*・永井 孝一\*\*  
 堀井 陽介\*\*\*・奥泉 譲\*\*\*  
 木原 好則\*\*\*

県立中央病院消化器内科  
 同 腎臓内科\*  
 同 血液内科\*\*  
 同 放射線科\*\*\*

症例は 44 歳, 男性.

【主訴】嘔気, 頭痛, 倦怠感, 腹部全体の痛み, 右上腹部痛.

【現病歴】2011 年 11 月 29 日にタンク内で 3 時間作業を施行後, 嘔吐, 腹痛が生じ, 高度の肝障害が指摘され 12 月 1 日当院へ紹介.

【検査所見】WBC 8000/ $\mu$ l, Hb 12.5g/dl, Plt  $0.6 \times 10^4$ / $\mu$ l, PT 7.8 %, PT-INR 8.02, FDP 249.4  $\mu$ g/ml, DD 111.2  $\mu$ g/ml, AST 969IU/l, ALT 5040IU/l, ALT 308IU/l,  $\gamma$ -GTP 73IU/l, T-bil 4.7mg/dl, D-bil 2.8mg/dl, BUN 47.6mg/dl, Cr 3.3mg/dl, Alb 2.8g/dl, IgG 1141mg/dl, ANA < 40 $\times$ , AMA-M2 < 5.0 $\times$ , HBs-Ag (-), Anti-HCV (-), その他のウイルス初感染 (-).

【入院後経過】傾眠傾向を伴う高度の肝不全, 腎不全, DIC, 血小板減少がみられ, 劇症肝不全の診断で, 血漿交換, 持続ろ過透析, 血小板輸血を行い, 経頸静脈の肝生検では著明な Zone 3 necrosis が見られた. 肝機能, 腎機能, DIC は徐々に改善し, 100 病日目に退院となった.

【結語】四塩化炭素に代表される塩素化炭化水素は肝障害, 腎障害を発症することが報告されており, 病状経過よりジクロロブタジエンによる肝障害, 腎障害の可能性が高いと考えられ, 四塩化炭素と同様, 高度の肝障害を発症する可能性があり, 取扱いには十分な注意が必要と考えられた.